

## 平成30年度第1回桑名市地域福祉計画策定委員会 議事録（要点録）

日 時 平成31年2月7日（木）10:00～12:00

場 所 くわなメディアライヴ2階 第1会議室

出席委員 長谷中委員（委員長）、高橋委員（副委員長）、山中委員、松岡委員、佐藤（美）委員、藤原委員、細井委員、村田委員、川瀬委員、佐藤（美）委員、加藤委員、伊藤委員（12名）

欠席委員 渡邊委員（1名）

傍聴者 なし

### 1. 挨拶

（保健福祉部長）

本日は、お忙しいところ第1回桑名市地域福祉計画策定委員会にご出席いただき、ありがとうございます。本委員会の委員をお引き受けいただいたことに重ねてお礼申し上げます。

本市の第3期地域福祉計画は「全員参加で課題解決～みんなが はぐくみ つくる くわなのまち～」という基本理念で、平成26年に策定した。今回は計画の改訂時期をむかえ、最近の地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進の方向性の検討や、現在の地域の実情・課題にそった見直し等を行い、今後の福祉・保健分野を総合的に推進する上での基本計画として、仮称ではあるが、桑名市地域福祉計画を策定することとした。計画の策定に当たり、現状の課題把握の1つとして、委員の皆様のご協力のもと、昨年11月から12月にかけて健康と福祉に関する市民アンケートを実施させていただいた。本日は、アンケート調査結果の速報となるが報告させていただき、アンケート結果からみえる課題等を踏まえ、皆様が日頃の活動の中で感じていることなどのご意見をいただきたいと思う。これから1年ほどにわたり、支え合い、安心して暮らせる地域をつくるための支援の方向性について、議論いただくよう、お願いして挨拶とさせていただきます。今後ともよろしく願います。

### 2. 委員長及び副委員長の選任について

＜委員紹介＞

委員長には長谷中委員が、副委員長には高橋委員が選任された。

（長谷中委員長挨拶）

委員長にご指名いただいた長谷中です。精いっぱい努めるので、皆さんの忌憚のないご意

見をいただければと思う。簡単だが桑名との関わりについて紹介する。2007年の第2期地域福祉計画策定から関わらせていただき、今年で13年目となる。日々、様々な問題を抱えた住民や地域等と関わられている皆さんの思いや理想、課題があると思う。そういった思いや理想を、この策定委員会でどんどん出していただき、少しでも理想を実現できるような、桑名にとって最適な計画となるような機会にさせていただければと思う。1年間よろしく願います。

(高橋副委員長挨拶)

各団体の代表の方と地域福祉と一緒に検討できることで期待している。これまで、私も地域福祉計画の推進市民会議で活動してきたが、もう少しやりたいなという思いもあり、その反省点を踏まえながら、これから一体となってやっていきたいと思うので、よろしく願います。

### 3. 議 事

#### (1) (仮称) 桑名市地域福祉保健計画の位置づけについて

(長谷中委員長)

議題に入る前に、本計画の考え方について共有を図っておきたい。桑名市では、これまで第1期、第2期、第3期の地域福祉計画が策定されてきた。十数年間にわたり、行政と社協と各種専門職、そして住民とともに一体となって策定し、推進してきた。新たな計画に関しても、行政と社協、住民の参画によって策定するという従来の方法を大切に、桑名市のキーワードである全員参加型で策定していきたいと考えている。社会福祉法の改正でも、地域福祉計画の策定に当たっては、住民とともに様々な分野の主体が参加することがうたわれている。本計画でも、限られた人数の参加だけでまとめていくというやり方ではなく、委員の皆様をはじめ、できる限り多くの方の多様な意見を反映させて、この計画をつくっていききたいと考えている。積極的に意見を出してほしい。

#### ※資料3に基づき事務局説明

(長谷中委員長)

資料3に基づいて本計画の位置付けならびに今後の流れについてご説明いただいた。確認したい点はあるか。2ページにイメージ図があるが、従来の地域福祉計画と保健も含めた計画を一体的に策定していく流れとなっている。従来は、どちらかという対象者・分野別に計画がつくられて、計画ごとに支援が実施されていた。そのやり方で全ての問題が解決できればいいが、今地域が抱えている課題は多分野にまたがる問題を同時

に抱えていることもある。分野ごと対象者ごとの計画に基づく支援の仕方だと対応、サポートできない制度の狭間といわれる場合もある。イメージとしては各計画が縦糸に当たると思う。今回の計画が横糸になって全体的につないでいく。地域包括ケアがキーワードとして出ており、切れ目のない包括的な支援ができる地域社会づくりが共通する目標だと思う。例えば、桑名市の医師会は、在宅介護医療連携支援センターを開設して、医療を介護や福祉とつなげながら相談支援を包括的に進めていると聞いた。総合医療センターの開設も進め、福祉や医療が連携を図りながら地域社会づくりを進めており、理念はみんな共通している。また、民生委員や自治会など住民も活動をしており、その活動は多分野にわたっている。計画を総合的につくっていくことで、より効果的で効率的な地域社会になっていくのではないかと。他の計画とも調和を図りながら、最終的に全ての人に対して切れ目のない包括的な支援の仕組みをつくっていこうということだったと思う。今日はまずイメージの共有を図りながら、皆さんとともにつくっていくという部分があると思う。忌憚のないご意見あるいは確認したいことを言ってもらえればと思う。

(川瀬委員)

地域共生社会は、ずいぶん前から取り組まれていたが、今になっていろいろなところが出てきている。私どもは「我が事」の方が自分たちの分野かと思っているが、委員として参加させていただいている以外からのところからの意見も吸い上げないと、また絵に描いた餅になってしまうと思う。すいぶん前からこの部分に関わっているが、予算をつけて動いてもらっているのだから、地域住民の意見が細かいところで吸い上げられるような会議にしてほしい。共生は、みんなで取り組む部分がますます大事になってくると思うが、それすら分かっていない地域住民がたくさんいる。その人たちに、ぜひ丁寧に優しく落とし込んでもらえたらと思う。

(長谷中委員長)

地域共生社会は目新しい話ではなく、皆さんが取り組んでいることをきちんと具現化していこうということだが、仕組みができるだけでは実現できない。横のつながりや有機的な連携が必要。計画が絵に描いた餅にならないよう、意見を出していただければと思う。住民参加も大事になってくる。今の限られたメンバーだけでなく、住民の参加を広げていくためにはどうすればいいのかも、検討して計画に反映していきたい。

(高橋副委員長)

7ページの計画策定の流れの予定のところでも少し危惧している。今日、市民アンケートの結果を出していただいて、どのように分析するか、7月まで話ができないのか。専

門家に分析していただくということで安心はしているが、7月までに市民の声を計画にどのように入れられるのか、そのへんをもう少し具体化していけるといい。

(長谷中委員長)

7ページの今後の流れを確認したい。この計画は、できる限り市民とともにつくっていくプロセスがあり、いろいろな人の声を反映させることも大事だ。今日は、まずイメージの共有と今後の流れの確認をし、いただいた意見を事務局が持ち帰り、多くの人たちの意見を反映できる方法を詰めていく。次の議題に移る。

## (2) 健康と福祉に関する市民アンケート調査結果について

### ※資料4に基づき事務局説明

(長谷中委員長)

まずは全体像をご報告した。これは速報版で、今後、詳細な分析で得られた現状と課題について、また分かりやすくまとめていただく。今日は第1回目の会議なので、委員から一言ずつでも意見をいただきたい。アンケートに関する質疑応答や他の足りない点については、会議が終わってから個別に事務局と話していただきたい。1人ずつ、それぞれの立場から計画に期待することや要望など願います。

(山中委員)

社協としては、まず桑名市全域に地区社協をつくることだ。それぞれの課題に対して解決に努めているが、今後も社協に期待されることに対し、しっかりと応えていきたい。よろしく願います。

(松岡委員)

医師会としては、アンケート結果の38ページ、地域の課題で「救急医療」と「小児医療」が前回より大きく減っていることが良かったと思っている。多いのが「道路の整備」や「移動手段」で、42ページの地域の課題の解決方法として「住民同士で協力して解決したい」が上位になっているが、住民が解決できる問題とそうではない問題があり、一括りにするのは疑問に思うので、検討してほしい。

(佐藤(美)委員)

地域包括支援センターの職員として初めて参加したが、3,000人が対象のアンケートで課題や問題がよく分かったので、今後活かしたい。今、自助・互助がすごく求められているが、ボランティア活動の参加意向で「機会があったら参加したい」が4割を超えており、地域住民ができること、助けてほしいことを、生活支援コーディネーターと

一緒に引き出していかないといけないと感じた。この1年、地域福祉計画に携わることができて、自分の勉強にもなると思う。

(藤原委員)

アンケートの結果報告の中で、多岐にわたっているいろいろな問題点がある。自分は西部地域におり、こういった問題が出ているということが市民に浸透していない部分があるので、まちづくり協議会とともに問題を解決していきたい。

(村田委員)

公立保育所の保護者会の代表として初めて参加したが、フルタイムでの仕事と地域への参加のバランスをどうしたらいいか考えさせられた。災害なども考える必要があり、地域での関わり合いはとても大事だと思っている。私たち保護者も、地域とあまり関わりたいとは思ってなくて、どうやってコンタクトを取ったらいいか分からないということもある。そういうことも発信できたらと思う。

(伊藤委員)

何故この会に選ばれたのかと思ったが、健康づくりがあったので、そこで私どもに話があったのだなと思った。今、いろいろな料理教室をやっているが、いつも出席される方が楽しい、続けてほしいと言ってくれているので、これからもずっと続けていけたらいいと思う。

(長谷中委員長)

食は健康と関連している。これからもご意見いただきたい。

(細井委員)

なかなか突っ込んだアンケートをしてもらったと思うが、自分の住んでいる地域は高齢化が非常に進んでおり、65歳以上が半分いる。隣近所も一人暮らしの老人か、子どもがいても出て行って夫婦二人というところだ。平成元年から障害者団体の会長をしているが、新しい人はなかなか参加してくれない。いろいろなデイサービスで教室を計画しているが、高齢者はバスの時間が合わずに参加できないことが多い。先日、総合医療センターができてから、バスが停まる時間が中途半端になってしまった。難しいとは分かっているが、もう少し考えてもらえるとありがたい。

(川瀬委員)

アンケートを渡されたのが3,000人、回答が1,300人で、もう少しあったらと思う。29ページのボランティア活動の参加意向で、参加したいと思いませんか「機会があったら」が40.2%だが、就労をみると、高齢になっても仕事をしている人がたくさんいて、ボラ

ンティア活動をする人たちの年齢層が高齢者とかぶっている。高齢者にボランティア活動に励んでもらうことは、共生社会をつくる、元気な高齢者をつくるという意味でも大変重要で、連絡協議会として、1人でも多く元気な高齢者をつくることはできると思う。しかし、参加したくても生活面の問題があり、働かないと生活できないという話がイコールでつながっているのも現実で、「我が事・丸ごと」の「我が事」は私どもで、「丸ごと」の部分は専門的なところで考えてもらわないといけない。また、中学生のボランティア活動への参加で、「参加したことがない」が半分以上を占めている。中学生に参加してもらい次世代につなぐ活動もしているが、学校に協力をお願いしたところ、高校生活が控えているということでストップがかかっている。この点は教育委員会に入ってもらわないといけない分野だと思う。

(佐藤(美)委員)

自分の意見は細井委員とだいたい同じだが、桑名市の一番端の地域だから交通の便が悪い。高齢者が外に出たいと思っても、バスでは帰りの時間が合わないので止めておくとなっている。高齢者が外に出てくれば、もう少し認知症の人も少なくなるのではないかと思う。

(加藤委員)

今回初めて参加させていただき、健康推進員として地域で行事などに出るが、どうしても皆さんに参加してもらえるか、検討していきたい。アンケートでも参加してもいいという人が結構いるようなので、参加してもらえる方法を考えたい。

(高橋副委員長)

地域福祉計画に携わってきたが、発端は、他の地域から来た自分が安心して暮らしたいと思ったことだった。自分も高齢者と呼ばれる年齢になったが、市民会議で桑名市内の団体の活動に参加する人が少なくなっていることが大きな課題となっている。つながる仕組みをつくることにより、それぞれ関わる人が充実感を得て活動に入っていけるようになればいいと期待している。

(長谷中委員長)

本日は言い足りないこともあったと思う。アンケートは、これから詳細を分析していくので、それぞれ確認したいことなどは事務局に言っていただきたい。自己責任の自助だけでなく、共助の住民の力、公助も大事なので、そこを具体的にあげながら、よりよい桑名の地域社会をつくるために、枠や分野をこえて皆さんの力がつながっていくことが大事だ。その一歩としてこの計画をつくり、いろんな方がつながって、もれのない支

援体制をつくっていかねばと思っている。

#### 4. その他

##### 自殺対策計画について【報告】

##### ※資料5に基づき事務局説明

(長谷中委員長)

地域福祉と関連がある。法改正には多様な背景があり、強調されているのが子どもの自殺に関してで、若い世代に向けても福祉教育を強化していくため、福祉と教育の連携が必要となる。この点からも、どんな地域社会が必要か、検討いただければと思う。

(事務局)

次回の策定委員会はスケジュールに沿い、委員のご都合をお聞きして、日時場所を調整の上ご連絡する。よりよい計画づくりに皆様のご協力をお願いする。

以上